

夏目漱石顕彰

第28回「草枕」国際俳句大会

「草枕」の玉手箱

（入賞作品集）

The 28th International “Kusamakura” Haiku Competition
Prize-Winning Haiku Magazine

目 次

実行委員会委員	1
ごあいさつ	2
選者略歴	3
入賞作品と講評	
・事前投句一般部門	4
・インターネット投句部門	7
・ジュニア部門	9
・外国語部門	13
・写真俳句部門	19
・当日投句部門	21
くまもと俳句ポスト	23
大会風景	24
大会を振り返って	25

第28回「草枕」国際俳句大会実行委員会委員

名誉会長	大 西 一 史	熊本市長
会 長	岩 岡 中 正	熊本大学名誉教授、(公社)日本伝統俳句協会会長、「阿蘇」主宰
副 会 長	西 川 盛 雄	熊本大学名誉教授、国際俳句協会会員
〃	福 永 満 幸	「水葱」俳句会主宰
委員(監事)	岡 内 ゆりか	熊本市文化創造部文化政策課 副課長 【以下50音順】
委 員	小 野 友 道	熊本大学名誉教授、(一財)熊本市国際交流振興事業団理事長
〃	穀 本 純 二	くまもと写真俳句研究会代表、元熊本日日新聞社写真部長
〃	鶴 本 市 朗	熊本県立図書館主幹
〃	富 田 一 哉	熊本日日新聞社文化部長
〃	中 村 英 文	(一財)熊本市文化スポーツ財団理事長
〃	西 口 裕美子	「霏霏II」編集事務局長
〃	西 村 泰 三	「松」編集・発行人
〃	光 永 忠 夫	熊本県俳句協会会長
〃	村 田 由 美	草枕交流館館長
〃	山 口 孝 徳	熊本信愛女学院高等学校教諭
〃(監事)	吉 村 隆 之	くまもと漱石倶楽部会長
事務局長	高 峰 武	熊本学園大学特命教授

「草枕」の玉手箱～発刊にあたって

「草枕」国際俳句大会実行委員会名誉会長

熊本市長 **大西 一史**



今年で28回目となる本大会は、国内外から約6,600句のご応募をいただきました。ご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、入賞作品を収めました『「草枕」の玉手箱』につきましても、ご高覧いただければ幸いです。

今大会では、令和元年以来4年ぶりにコロナ禍のため休止していた当日投句を開催し、会場には250人を超える皆様に足を運んでいただくとともに、外国語部門においては、世界71カ国から1,200句を超える作品が寄せられるなど、本大会が世界規模の俳句大会としてますます広がりを見せておりますことを大変嬉しく思います。

また、表彰式では、俳誌「小熊座」を主宰されている高野ムツオ先生をお招きし、「俳句が映し出すもの」と題してご講演をいただきました。ご来場の皆様には、5・7・5の17音に四季を慈しみ、自然を愛でる思いが込められた俳句の魅力を感じられる機会となったのではないかと思います。

本市では、このような機会を通して、俳句が日本を代表する伝統文化として継承され、国内外へ広く発信されていくことが大切であると考えておりますので、皆様方には引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました選者の方々をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、大会にご参加いただきました皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、発刊のご挨拶といたします。

ことばの回復～御礼にかえて

「草枕」国際俳句大会実行委員会会長

岩岡 中正



今年で28回を迎えたこの大会ですが、今回は新型コロナウイルス禍を越えて4年ぶりに当日投句部門が復活し、熊日読者文芸選者で俳誌「小熊座」主宰の高野ムツオさんの「俳句が映し出すもの」と題する、一人一人の俳句への励ましへの講演も盛会のうちに終わりました。その他すべての御参加の皆様方に心より感謝します。

今年も各部門とも盛況でしたが、とりわけ今年は外国語部門でこれまでの最多の71の参加国・地域からの投句があり、本大会も、文字通りわが国有数の国際俳句大会へと成長しました。

今日、活字離れや文字離れがますます加速していますが、俳句を含む文芸や文学という、「ことばの文化」が、この分断化された今日の社会や地球にとって今ほど必要な時代はありません。私たちは「ことば」によって人間と自然、人間と人間、私と私の内面とをつないで、今日のさまざまな分断の時代の危機を乗り越えたいと思います。幸い今回、たくさんのジュニア部門への参加もありましたが、私たちは俳句という文芸を通して、次世代へ、世界へつながっていきたいと思います。

豊かで平和な熊本市やわが国、そして地球のために、さらに豊かなことばの絆をつくるために、来年もこの大会をよろしくお願い致します。

選者略歴

事前投句一般部門

いわ おか なか まさ
岩岡 中正

「阿蘇」主宰
(公社)日本伝統俳句協会会長
『春雪』『相聞』『文事』『虚子と現代』他

たか の む つ お
高野ムツオ

「小熊座」主宰
(公社)現代俳句協会副会長
『蟲の王』『萬の翅』『片翅』他

お か わ はる こ
小川 晴子

「今日の花」主宰
(公社)俳人協会評議員
『花信』『摂津』『今日の花』

にし むら かず こ
西村 和子

「知音」代表 (公社)俳人協会副会長
国際俳句協会理事
『かりそめならず』『椅子ひとつ』他

きし もと なお き
岸本 尚毅

(公社)俳人協会評議員
「天為」「秀」同人
『雲は友』『小』『文豪と俳句』他

インターネット投句部門

にし むら たい ぞう
西村 泰三

「松」編集・発行人
(公社)俳人協会評議員
『三郎塚』

ふく なが みつ ゆき
福永 満幸

「水葱」俳句会主宰
『初鴨』他

ジュニア部門

にし ぐち ゆ み こ
西口裕美子

「霏霏Ⅱ」編集事務局長
(公社)現代俳句協会会員
『群青い耳』

やま した し げ と
山下しげ人

「ホトギス」同人
(公社)日本伝統俳句協会熊本県部会長
ふる里俳句館館長 『穴よりも』他

みつ なが ただ お
光永 忠夫

「自鳴鐘」会員
熊本県俳句協会会長

やま ぐち たか のり
山口 孝徳

「霏霏Ⅱ」所属
熊本信愛女学院高等学校国語科教諭

* 米村 恒憲氏は、今回は都合により
選者を辞退されました。

外国語部門

い じり か よ こ
井尻香代子

京都産業大学文学部教授
京都府連句協会常務理事
『アルゼンチンに渡った俳句』他

よね おか し ゅ り
米岡ジュリ

熊本学園大学外国語学部英米学科教授

にし か わ もり お
西川 盛雄

熊本大学名誉教授
国際俳句協会会員
『漱石の英詩におけるポイエティクス』
『俳句は国境を越えて』他

にし まき いさむ
西槇 偉

熊本大学大学院人文社会科学研究部教授
『中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術
受容と日本』他

写真俳句部門

い せり しん いち ろう
井芹真一郎

「ホトギス」同人
(公社)日本伝統俳句協会評議員
日本現代詩歌文学館振興会評議員
『梢風』

こく もと じゅん じ
穀本 純二

くまもと写真俳句研究会代表
元熊本日日新聞社写真部長

当日投句部門

いわ おか なか まさ
岩岡 中正

事前投句一般部門に掲載

お か わ はる こ
小川 晴子

事前投句一般部門に掲載

たか の む つ お
高野ムツオ

事前投句一般部門に掲載

事前投句一般部門

「草枕」大賞

手話の手のある時強く原爆忌

荒木 賢一 (熊本県 天草市)

地下水都市・熊本賞

滴りの一音山気揺らぎけり

中川 裕子 (熊本県 宇土市)

日本航空賞

城は父市電は母や春夕焼

山下 清実 (東京都 世田谷区)

JAグループ熊本賞

風薫る風格新たなる天守

今中 榮泉 (福岡県 福岡市)

福井市賞

雲映す湖へぎぶぎぶ跣の子

若松 節子 (熊本県 熊本市)

松山市賞

余生なき子規漱石や夕端居

芥川 卓 (熊本県 熊本市)

岩岡 中正 選

特選

秋立つやバイクの並ぶ古戦場

田中昭三八 (熊本県 宇城市)

入選

秋天へ倒立の足揃ひけり

古賀久美子 (熊本県 熊本市)

庭下駄の緒の美しき夕花火

豊田規容子 (熊本県 熊本市)

火の山は肥後の水甕稲の花

大川内みのる (熊本県 荒尾市)

佳作

付き添って乗り込む梅雨の救急車

大石伊津子 (熊本県 長洲町)

立ち止まる蟻ゐて列の乱れけり

岡田 邦男 (岡山県 津山市)

さみしさの指に天道虫這はす

平川みどり (熊本県 南関町)

故郷の山を見にゆく墓参り

渡邊佳代子 (熊本県 菊陽町)

端居して戦つてゐる人のこと

伊藤 広子 (熊本県 熊本市)

選評

本大会の事前投句のメ切的期日のせい、毎年夏と初秋の季節の句が多いが、それでも季節あふれるすぐれた写生句、時空を越える物語性をもつ俳句など、どれも個性あふれる句に恵まれて、今年も感謝。

大賞・各賞の中の「原爆忌」の句の「ある時強く」に、心からの怒りが、「滴り」の句の「山気の揺らぎ」には身体ことの透明感があり、「雲映す」の句には「跣」の感触が伝わってきて、いずれも季節が十分に生きている。また「城は父」の句と「余生なき」の句には、小さな物語が思いをこめて語られており、前者の「春夕焼」、後者の「夕端居」のそれぞれ季題が的確。

私自身の選のうち特選の「秋立つや」は並ぶバイクと古戦場の取り合わせの句が自在で、その他「秋天へ」の句の爽やかさ、「庭下駄」の句の「夕花火」への郷愁、「火の山」の句の「稲の花」への感謝の心に注目。また「端居して」の句は、時代に敏感に反応している。

小川 晴子 選

特選

天守閣囲める青葉青葉かな

工藤 靖子 (熊本県 熊本市)

入選

武者返し蟻一匹が攻め落す

阿部 弘子 (福岡県 福岡市)

忘却といふ潔さ白桔梗

上田 輝子 (熊本県 菊陽町)

ロボット犬相槌呉れる夜長かな

高熊 絹恵 (福岡県 嘉麻市)

佳作

彦星の櫓のしずくや雨しとど

小城丸純子 (熊本県 熊本市)

山滴る水の地球の一雫

花土 公子 (東京都 世田谷区)

天心の月の気高き天守かな

児玉 胡餅 (熊本県 熊本市)

カルデラに太古の火照り田水沸く

森 まり子 (熊本県 熊本市)

江津湖畔久女汀女は蚊帳の中

中嶋 重利 (福岡県 築上町)

選評

事前投句一般部門は五〇四人、一七九八句の中から頂いた大賞・各賞です。

地下水都市・熊本賞 滴りの一音山気揺らぎけり 中川裕子さん (宇土市)

阿蘇山の伏流水に恵まれた土地ならではの実感のこもった秀句です。「滴りの一音」は幽かな澄み切った音です。その一滴が山中にこもる空気を大きく揺るがす力と恵みを感じます。繊細であり雄大な句です。

日本航空賞 城は父市電は母や春夕焼 山下清実さん (東京都)

熊本城は町の中心にどんと構えて、いつも私たちを見守ってくれる父親のようです。その町の中を忙しく朝な夕なに走っている市電は日々の暮らしの大切な交通手段です。働き者の母のようです。季語「春夕焼」もほっこりします。

特選 天守閣囲める青葉青葉かな 工藤靖子さん (熊本市)

県木「クスノキ」は熊本城内をはじめ神社や寺院の巨木があり県民に親しまれています。「青葉青葉」と詠まれ、クスノキの艶やかさと生命力が読み手に伝わってきます。

岸本 尚毅 選

特選

臍浸けて家族四人の水眼鏡

青竹 町子 (福岡県 水巻町)

入選

カルデラに輪地切る音や秋に入る

今村 雅美 (熊本県 合志市)

湯のやうな小便放つ原爆忌

合田マサル (大阪府 堺市)

麦秋や幾たり死なば戦止む

松井 絹子 (宮崎県 宮崎市)

佳作

日の温み包みて燃れて木槿落つ

吉田由利子 (熊本県 宇城市)

幾すじも牛の径あり枯尾花

齊藤 守 (熊本県 熊本市)

浮いて来い先に浮かべてある盥

大江田妙子 (熊本県 八代市)

青柿や燵となりし三姉妹

平山紀美子 (熊本県 熊本市)

告知の夜甘え鳴きする仔猫ゐて

墨海 游 (山口県 下関市)

選評

大賞荒木氏作は手話者の思いの強さが感じられ、それが原爆忌にまつわる平和への希求に及ぶ。日本航空賞山下氏作は城を父、市電を母と見た詩想に納得。福井市賞若松氏作は「雲映す」によつて景が広がる。松山市賞芥川氏作は子規漱石と比べた我々凡人の余生の幸せを思う。特選青竹氏作は、家族揃って水に浸かつて足元の水中を見ている場面。「臍浸けて」から水の感触さらに家族の連帯が想像される。入選今村氏作の「輪地切る」は野焼きのための防火線を設ける作業。音を捉えたのが良かった。入選合田氏作は被爆の肉体的惨状に思いを馳せた。入選松井氏作は「幾たり死なば」という嘆息の背景にある「麦秋」がかなしい。佳作吉田氏作は日ざしを受けてしおれた木槿の花の燃れ曲つた様子を描いた。佳作齊藤氏作、牛の通り道が幾筋もある芒原の広やかな景。佳作大江田氏作、浮人形のほうが先に盥に浮かんで子供を待っている。佳作平山氏作、墨海氏作ともに句意は明瞭。

高野ムツオ 選

特選

防人や藻屑の寄する青岬

千田 道晋（神奈川県 横浜市）

入選

黒南風や道切蛇の村はずれ
蟬しぐれ地の骸にも降り注ぎ
すべて雑音秋風の音のほか
関 とし子（埼玉県 さいたま市）
末廣 淳（熊本県 熊本市）
西村 孝子（熊本県 熊本市）

佳作

鞆に大阿蘇の風乗ってくる
朝涼に百頭の牛動きけり
西瓜抱き西瓜のこゑを聴く子かな
濁りこそ田んぼの力早苗植ゆ
小林万年青（秋田県 秋田市）
渡邊 照夫（埼玉県 鴻巣市）
木村佐恵子（熊本県 熊本市）
加藤 義博（福岡県 古賀市）
土屋 芳己（熊本県 菊陽町）
カルデラの中に幾つも盆踊

選評

城は父市電は母や春夕焼
仕事帰りだろうか。市電の座席でうつらうつらしているのだ。熊本城が時折見えるのだらう。その姿を父とするなら、作者をゆつくり運んでくれる電車は母のような存在。座席に委ねた体を癒すように優しく揺らす。どちらも熊本にはなくてはならないもの。今春夕焼に包まれながら、作者は幼い頃へ戻っていく。

風薫る風格新たな天守
復旧なった熊本城の天守閣。全体復旧までは、まだ道のりは遠いが、それでも勇姿が仰げるのは嬉しいこと。この句は、ただ姿が戻ったというのではなく、風格まで一新したと受け止めたところに発見がある。五月の風が新しい歴史を刻んだ天守閣を寿いでいるかのようだ。

防人や藻屑の寄する青岬

防人は古代、九州沿岸部の防衛のため。越後、信濃など東国から兵士として農民が集められ派遣された。防人歌がよく知られる。その故郷を恋い慕う思いを彼方から寄せる藻屑に託した。藻屑もまたはかないものとして、古今和歌集などに詠われている。青岬は比較的新しい造語だが、その清新な気分が、句の抒情も刷新してもいい。

西村 和子 選

特選

月光に濡れて艶増す阿蘇の牛

大久保 昇（東京都 葛飾区）

入選

猫の目に魔性の光漱石忌
樹木医の聴診長しちちろ鳴く
潔きことも武士道肥後菖蒲
永里 瑞代（鹿児島県 鹿児島市）
槻木 俊彦（熊本県 熊本市）
芥川 竜人（愛媛県 西条市）

佳作

若葉冷復元へ石ひとつつつ
旅枕馴染まぬ夜のほととぎす
漱石の足跡ここに肥後すみれ
自画像は遺影八月十五日
年忘独り者のみ集まりて
宗像 和子（熊本県 熊本市）
嶋田 光子（熊本県 熊本市）
古賀 紀子（福岡県 大牟田市）
畑本 信行（大分県 玖珠町）
石田 賢吾（岐阜県 郡上市）

選評

特選 月光に濡れて艶増す阿蘇の牛
実景の描写かもしれないが、詩的想像力の所産と読みたい。昼間見た阿蘇の牛もつややかだったが、この月光が草原に降り注いでいる光景を想像すると、いっそう牛の肌が磨かれることだらう。「濡れて」の一語が具体的に、読み手の想像力も刺激される。

入選 猫の目に魔性の光漱石忌
漱石の小説によって、無心に見える猫にも洞察力があると、私たちは思いこんでしまった。その気で猫を見ていると何やら魔性を感じるといふ、さらに一歩猫の内に踏み込んだ句。実は何も考えてはいないのかも。

入選 樹木医の聴診長しちちろ鳴く
幹に聴診器を当てているのだらう。「長し」に形だけではない、異状を聞き取った気配を感じる。季語は静寂を表わしている。

入選 潔きことも武士道肥後菖蒲
肥後菖蒲の美に武士道の精神を感じ取った句。その姿が見えてくるようだ。

インターネット投句部門

「草枕」大賞

飛び込みの橋に勇氣の集まれり

下村 修
(神奈川県 川崎市)

特選

湖につつぬけの空燕来る

古山 礼子
(広島県 東広島市)

片隅の笑はぬ生徒夜学の灯

穂苅 真泉
(長野県 安曇野市)

呼び捨てにされてる男子キャンプ村

貝田ひでを
(熊本県 八代市)

だんだんと月上りつつ宙の宴

屋敷 旺甫
(京都府 京都市)

入選

掬われて家族となりし金魚かな

道下 経枝
(千葉県 市川市)

茄子馬の足が背に抜け盆終わる

山口 雀昭
(山形県 米沢市)

かぐや姫のその後は知らず竹落葉

和田 節子
(熊本県 熊本市)

馬洗ふほたるの川の水かけて

丸本 祥夫
(長崎県 長崎市)

穂をつけてまだ垂直の稲田かな

土屋 芳己
(熊本県 菊陽町)

緑蔭に丸飲みされそうな我ら

浦田 姫佳
(熊本県 熊本市)

不機嫌の箸に崩るる冷奴

中嶋 重利
(福岡県 築上町)

新聞と本と眼鏡と春炬燵

中島 敬吾
(熊本県 南阿蘇村)

割り算のきれいに割れる涼しさよ

真弓ぼたん
(熊本県 熊本市)

球体は宇宙の起こり芋の露

加藤 義博
(福岡県 古賀市)

選評

西村 泰三

飛び込みの橋に勇気のあつまりれり

光景は素直に脳裏に描く事ができます。少年時の球磨川に掛かる吊橋での事を思い出します。「飛び込み」を季語と見て良いのか迷いましたが、ダイビングが「水泳」の傍題にありましたので、採用しました。

湖につつぬけの空燕来る

湖で江津湖を思い出しました。上も下も江津湖の空は遮る物はありません。空の果てまで筒抜けです。鴨が帰るとその空に燕が帰って来て飛び回ります。中七の記述に湖の空の様子が見事に描写されています。

片隅の笑はぬ生徒夜学の灯

何故笑わないのかは示してありませんが、「夜学」から、この生徒の身の上から気持ちまで色々想像され、句の背景＝句からの想像が広がります。「述べてしまったら何も残らない」と芭蕉も言っています。余分な解説も説明をしない。省略の効いた句だと思います。

呼び捨てにされてる男子キャンプ村

上中の記述で何の事と思わせ下五で光景が決まる、見事な表現です。女の子からも呼び捨てにされているのです。そんなキャンプ場の様子が見事に描写されています。

だんだんと月上がりつつ宙の宴

師上村占魚の「天上に宴ありとや雪やまず」を思い出します。この句の作者にも、月が上って行くにつれ輝きや明るさを増す中に、天空の宴が見えて来たのですね。

選評

福永 満幸

投句数は昨年とほぼ同数。季語のないものを含めて多数の投句があり、選も楽しかった。

外来語のカタカナが目立つ。使うときには、固有名詞以外は人口に膾炙されているものが望ましい。「モルゲンロート」という語があつたが、「朝焼け」とすれば四音で足りる。

飛び込みの橋に勇気の集まれり

高い橋の上から遙か下の水面めがけて飛び込む。その勇気ある者が集まっている。それらを見物する者たちの姿まで見える。省略が利いている。

湖につつぬけの空燕来る

燕が渡って来た。湖の上の水生昆虫の羽虫を求めて駆け巡る燕たち。「つつぬけ」の空がよい。

片隅の笑はぬ生徒夜学の灯

教師が何か面白いことを言った。みんなが笑っている中で、片隅の生徒は笑わない。よく見ると居眠りしている。昼間の仕事に疲れているのであろう。



※お問い合わせ先※

『松山はいく』事務局

所在地：愛媛県松山市三番町3-9-3
K-13ビル5F

TEL:089-945-6445

受付:10:00～17:00

松山はいく

正岡子規のふるさと・松山では、まち歩きの「ハイキング」と「俳句」をかけて名づけられた観光まち歩きガイド『松山はいく』が活躍中!!道後温泉や松山城以外にも遍路体験をしながら石手寺を巡ったり、吟行句を地酒ラベルにしたりするなどオリジナリティあふれるコースをたくさんご用意しています。ご予算やお時間など、お気軽にご相談ください。

詳しくは、お電話又はHP:<https://matsuyamahaiku.jp> まで。

令和独楽吟 - 橘曙覧顕彰短歌コンクール - のご紹介

福井に生きた幕末の歌人、橘曙覧（たちばなのあけみ）。

曙覧が詠んだ連作の歌に「独楽吟」があります。独楽吟は「たのしみは～とき」の形で詠まれた52首の連作の短歌です。福井市では、この曙覧の世界に学び、生活の中の身近な楽しみを詠んだ歌を「令和独楽吟」として、毎年募集しています。

第28回令和独楽吟（令和4年度）受賞作品

【独楽吟部門】
○橘曙覧賞 たのしみは大工を継いで父と祖父親子三代作業するとき
○熊本市賞 たのしみは反抗期中の弟が思わずこぼす「おいしい」聞くとき

【令和6年度（第30回）の募集について】

令和6年9月1日～11月30日の期間、募集を行う予定です。皆様からの「たのしみ」の歌、ご応募お待ちしております。自由詠の短歌を募集する「自由短歌部門」も併せて募集します。

（賞）橘曙覧賞（賞状と副賞）ほか8賞

主催 福井市、（公財）歴史のみえるまちづくり協会

ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

散はつをしたような島春の海

大友 一晃

(熊本県熊本市立力合小学校四年)

中学生の部

背泳の届かぬ空の青さかな

有働 生望

(熊本県熊本市立東町中学校三年)

高校生及び十八歳以下の部

緞帳がのたりのたりと秋の暮

上松 篤史

(和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年)

(公財) JAL財団賞

夏空へ手足伸ばして水に浮く

矢澤 佳乃

(熊本県熊本市立京陵中学校二年)

西口裕美子

選

特選

せみが鳴くかん字ノートはおわったよ

引田 裕太 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

入選

母さんと青いけしごむつゆに買う

横 一千翔 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

ひまわりのきいろはいちばんすきないろ

松尾みおり (福岡県善照寺「寺子屋俳句会」 小学校二年)

ティラノサウルスするどいきばで月をかむ

張 晋碩 (埼玉県開智小学校一年)

銀やんま一匹ぼくも一人下校

高田竜乃介 (熊本県荒尾市立府本小学校五年)

佳作

天ぐまうぼくはかしらの春のしし

笹川 桜介 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

父の日の青いTシャツ父わらう

尾崎 悠美 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

ねむれない弟がなく夏の夜

松山 陽 (富山県高岡市立伏木小学校二年)

秋暑しあごに手を当て考える

高野 由奈 (熊本県尚綱中学校二年)

夏休み兄が作った肉じゃがよ

植野 遙斗 (熊本県熊本市立城西中学校三年)

向日葵のでっかく咲くやサーブ打つ

津田 彩乃 (熊本県熊本市立富合中学校三年)

おはやしがドンチキドンとけんか山

川端ひかり (富山県高岡市立伏木小学校四年)

春のくれキャットタワーを組み立てる

高橋 壮磨 (東京都江戸川区立南篠崎小学校五年)

夏のまん月まどから一人見上げてる

米田 彩夏 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

秋桜挟んで交わすまたあした

境 玲菜 (熊本県玉名女子高等学校三年)

選評

綴帳がのたりのたりと秋の暮

綴帳は重い。それは歳月の重さでもあり、また作者の心の重さでもある。ある秋の日の夕暮と、秋の終わりの二つの意味を持つ季語が「秋の暮」。いずれにせよ、季節の移りを重さとしてとらえ、さらにオノマトペ「のたりのたり」を使つて作者自身の秋の暮れを描いて見せた。絶妙な作りに拍手。

ジュニアの部には夏休みの宿題を詠んだものが例年かなりの数に及ぶ。その中の秀句。

せみが鳴くかん字ノートはおわったよ

かん字ノートとあるから小学校低学年だろう。蟬の声に負けまいと、おそらく宿題の中で一番手っ取り早くできそうな漢字の宿題に取り組んでやり遂げた作者の心の弾みが感じられる。助詞の「は」があることで山積みの宿題の存在を思わせる。作者が聞く蟬の声が、法師蟬や蝸ならば事態は深刻。だが、ここは、蟬時雨だろう。思わず作者に頑張つて!と声をかけたくなった一句。

自分の中の喜怒哀楽、今の世の中に対する鬱屈した想いを十七音で思いっきり表現してほしいと切に願いつつ、今年の選句を終えた。

光永 忠夫 選

特選

小綬鶏やちよつと待つてよ今いくよ

新井 杏奈 (埼玉県開智小学校三年)

入選

初盆の涼しい部屋のさみしさよ

高木 優奈 (熊本県熊本大学教育学部附属中学校一年)

人間の永遠くりかえすラビリンス

出口 時春 (熊本県熊本市立城東小学校六年)

思い出のどこをとつても君がいる

塩田 彩七 (熊本県熊本信愛女学院高等学校一年)

スマホからアラームかみなりまた鳴った

青木 悠真 (富山県高岡市立伏木小学校二年)

佳作

ジリジリと地球ふつと夏休み

永野 史奈 (熊本県熊本市立託麻原小学校三年)

かきごおり入道雲の完成だ

甲斐 美空 (広島県福山市立大門中学校三年)

夏終わる負けて涙のグラウンド

高田 竜雅 (熊本県熊本市立富合中学校三年)

錦秋の湖面に映る金閣寺

朝倉 凜音 (熊本県熊本市立富合中学校三年)

夏休み宿題いっぱい夢いっぱい

塚本 紗愛 (熊本県玉名女子高等学校三年)

ベランダで静かに花火見つめてた

西田 光梨 (熊本県玉名女子高等学校三年)

汗ぬぐう届かなかったあと一点

富山 流衣 (熊本県玉名女子高等学校三年)

母さんにおこされている春の朝

舟本 朱璃 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

とかげの子にじろしてるきれいだな

斉藤 結花 (福岡県善照寺「寺子屋俳句会」 小学校五年)

バックトス汗と涙の晴れ舞台

田中 琴菜 (熊本県熊本市立富合中学校三年)

選評

◇ 小綬鶏やちよつと待つてよ今いくよ
外あそびのおすめ。鳥やけものの声や動作をまねしてあそびます。ウグイスやホトトギスなどの鳥、サルやゾウなどの動物。ある日「ちよつと来いちよと来い」と鳴く鳥。あとで図鑑や、鳴き声テープで調べたら「小綬鶏」でした。「ちよつと待つてよ今いくよ」と続けて、楽しい句になりました。

◇ 人間の永遠くりかえすラビリンズ
ラビリンズは、迷路、迷宮のこと。今もあちこちで続いている紛争・殺戮などのできごとはなぜなくならないのだろう。戦争とか侵略という言葉はありませんが心を痛めているのです。

◇ 思い出のどこをとつても君がいる
心ならずも疎遠となった人や、もしかしたら事故で亡くなった人のことを偲んでいるのかもしれない。ヒトは他の人の心の中に生き続けることがあります。この句、案外、この夏をいっしょに過した友のことを懐かしんでいるだけの句かもしれません。季語なしでも成立。

山口 孝徳 選

特選

太陽をラムネの中に閉じこめる

柳沢 悠斗 (東京都江戸川区立南篠崎小学校四年)

入選

肉も果実もどんぶらこ蟻の道

竿本 啓晴 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年)

バトンからペンに持ちかえ走る夏

田尻 凜 (熊本県玉名女子高等学校三年)

稲光ここに裏切り者ひとり

小原 健 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校一年)

かんらん車のでっぺん友と夏の海

島谷 心 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

佳作

一本のラムネを分けし夏祭り

渡結 希加 (熊本県一ツ葉高等学校三年)

嘴に深緋に染まるさくらんぼ

山口 華々 (熊本県熊本市立東町中学校三年)

にいちやんとならべる小さいゆきだるま

倉持 傑 (富山県高岡市立伏木小学校二年)

翼竜と少し似ている渡り鳥

菅崎 美結 (埼玉県開智小学校二年)

白球を入道雲へと振るバット

江副古都実 (熊本県玉名女子高等学校三年)

カステラの中は生やけ星祭り

引田 大翔 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

せみが来て私の服でひと休み

矢澤 彩乃 (熊本県熊本市立壺川小学校六年)

消防士にAEDをならうつゆ

野原 蒼太 (富山県高岡市立伏木小学校五年)

まん月をゆらゆらす海のなみ

石橋理香子 (熊本県荒尾市立平井小学校四年)

選評

今年も気持ちのこもったたくさんの方の俳句に出会うことが出来ました。選をする中で印象に残った句をご紹介します。

太陽をラムネの中に閉じこめる 柳沢悠斗

ラムネを飲んだ瓶を空にかざしている夏の風景が見えてきます。小さなラムネに大きな太陽を閉じ込めるといふ大と小を逆転させた発想が、キラキラした太陽の輝きを一層引き立てることに成功しています。

肉も果実もどんぶらこ蟻の道 竿本啓晴

蟻たちが自分たちの食事を巣に運んでいる景でしょうか。「どんぶらこ」とすることで作者の視点が定まりました。まるで川を思わせるような表現で蟻たちが列をなしている様子が見えてきます。十七音を無駄なく使い、言いたいことをしっかりと伝えていきます。

山下しげ人 選

特選

目を閉じて海の音鳴るラムネ瓶

増田 莉子 (熊本県熊本信愛女学院高等学校二年)

入選

算数の解け鈴虫の澄んだ声

高田 なつ (熊本県荒尾市立府本小学校六年)

雨粒の一つ麓に落ちて秋

雑賀 隆晟 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年)

恐竜は進化続けて大夕焼

小林希莉葉 (埼玉県開智小学校三年)

低く飛ぶつばめ目で追う本閉じる

橋詰 昊和 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

佳作

締め切りが今日だと気づく蟬の声

武田 薫 (熊本県熊本市立東町中学校三年)

脈を打つ風の匂いといかずちと

瀨砂 花帆 (熊本県熊本市立東町中学校三年)

鳴き声が聞こえない日に鳥渡る

左座 唯希 (熊本県尚綱中学校三年)

曇る窓硝子の奥の雪明かり

岩下明日香 (熊本県熊本大学教育学部附属中学校一年)

中天に入道雲の立ち尽くす

村上 幸輝 (熊本県一ツ葉高等学校三年)

単語帳めくる手急かす蟬の声

沢村 乃愛 (熊本県玉名女子高等学校三年)

かけ登るらせん階段子どもの日

上地 安礼 (沖縄県那覇市立城東小学校四年)

コスモスや悩み続ける進路室

三浦 一心 (熊本県熊本市立城西中学校三年)

雨音はシヨパンの調べ後の月

須藤 楓奏 (熊本県尚綱高等学校一年)

木犀の香りかすかな帰り道

城戸 心和 (熊本県玉名女子高等学校二年)

選評

今回も多くの作品を応募戴き楽しみながら選句をさせて戴きました。その中でも特に心に残った三句を紹介致します。

「草枕」大賞 小学生の部

散ばつをしたような島春の海

天草に浮かんでいるような島でしょうか。さつぱりと鮮やかな島の緑を目にして「散髪をしたよう」だと直感したのでしょうか。明るく未来性のあるフレッシュな感じの「春の海」ならではの一句です。

(公財) JAL財団賞

夏空へ手足伸ばして水に浮く

「水に浮く」とありますのでプールでの様子でしょう。何にも束縛されず手足を伸ばし、青空だけを視野に浮いているのですから開放的です。大胆に「夏空へ」と切り出したことでスケールの大きな句に仕上がっています。

選者特選

目を閉じて海の音鳴るラムネ瓶

目を閉じてラムネ瓶のビー玉のかすかな音を聞く度に海で楽しんだことが懐かしく思い出されたのでしょうか。しかも、楽しんだ頃には戻れないことを感じさせる淋しさと愁いまでも含んでいる繊細な一句です。

外国語部門 Non-Japanese Section

草枕大賞

Kusamakura Taisho (Grand Prize)

**war zone
a soldier unhands
the firefly**

訳 戦場で
手放す兵士の
螢かな

Roberta Beary
(Ireland)

地下水都市・熊本賞

Chikasuitoshi・Kumamoto sho

(Kumamoto 'City of Artesian Waters' Haiku Award)

**Frío otoñal.
Mariposas viajeras
en procesión.**

訳 秋冷や
渡りの蝶は
列をなし

Aurea Leticia Reza Patiño
(México)

講評 Comment

西川 盛雄 Morio Nishikawa (英語 English)

本年度第28回『草枕』国際俳句大会外国語部門は71か国より641人、1204句の応募があった。今や俳句は国境を越えている。外国語部門の英語ではアメリカ合衆国、イギリス、インド、クロアチア、フィリピン、ルーマニアなどからの応募が多く、スペイン語ではスペイン、アルゼンチン、メキシコからが多く、中国語では今回中国からの応募が増えた。俳句は現下の分断の世にあって異なる国や人や民族を繋ぐ希望であると思われる。

応募作品の傾向として地球規模での時代を反映しているものが多くなっている。大賞作品もその一つで、キーになる語彙（例えば *unhand*）の使い方が絶妙で、簡潔さゆえの知的な力強さの描出が見事であった。地下水都市・熊本賞、特選、入選作品もそれぞれに味わい深いものも多く、出来栄の差異をつけることに苦労した。俳句にあって短かさの中にも切れの良い「美しい」作品が琴線に触れて記憶に残る。これからも俳句は国境を越えて深化され、拡がることを願うばかりである。

We have got this year more than twelve hundreds haikus from more than seventy countries on this globe. As a matter of fact, haiku is now crossing over the boundaries of nationality, It can be considered, therefore, a hope to bridge different races and cultures under the present complex age of disruption or breakups in this world. The haikus applied this year had a tendency to reflect the reality of nature and society on this earth. Being an artistic work of language, haiku seems to be a living thing. The haiku which won grand prize this year is featured by a great success in making effective use of the key term *unhand*. The haiku of the second grand prize was also skillfully beautiful. Other selected haikus, including Tokusen and Nyusen, were excellent enough to create respectively the beautiful poetic world. It goes without saying that shortness in haiku is the cause of poetic strength and beauty. We wish haikus will be cognitively deepened and make a further expansion across the boundaries of nationality.

米岡 ジュリ Judy Yoneoka (英語 English)

世界の鼓動を感じるには、英語の俳句952句を読むほど良い方法はありません。今年は62カ国（全体の71か国の87%）から集まった510名の声を通して、パンデミックによる孤独と予期せぬ別れの痛みが徐々に新しい人生、新しい希望、新しい自然や環境の見方に移り変わっている気がします。

最も多く使われた普通名詞をコーパス分析法で集計したところ、上位5つの単語 *sky, night, moon, rain, sun* 「空、夜、月、雨、太陽」で分かるように、多くの詩人が天に向かって詠んでいます。6番目は *summer* 「夏」は四季の中で最も頻繁に使用されました。8月末の締め切りを反映したものかもしれませんが、地球温暖化という共通の危機への焦点を当てていることも感じさせます。戦争関連の俳句が依然として続いているが、人間味の存続への希望は、トップ40にランクインした *life, home, time, love, heart, mother* 「人生、家庭、時間、愛、心、母」の言葉で表現されています。私たち人間がどこに居ても、俳句の精神で結びついていることを感じます。

There is no better way of feeling the pulse of the world than reading through the 952 international haiku written in English, 79% of the total number of 1204 international haiku received. This year, through the voices of 510 poets from 62 of the 71 participating countries (=87%), the pain of loneliness and unexpected parting through the pandemic gave way to new life, new hope, fresh views of nature and the world around us. A quick corpus-based tally of the most-used common nouns this year revealed that many were looking towards the heavens, the top five words being *sky, night, moon, rain, and sun*. The sixth word was *summer*—by far the most often used of the four seasons. This may have reflected the deadline of the contest, but also indicated a focus on our common crisis of global warming. War-related haiku continued to dominate, but throughout the continuing voice of humanity was expressed in vocabulary such as *life, home, time, love, heart, and mother*; all in the top 40. Wherever we are, the spirit of haiku continues to bind us together.

井尻香代子 Kayoko Ijiri (スペイン語 Spanish)

今年、スペイン語ハイクは世界各地の18カ国から応募がありました。ヨーロッパ6カ国、北中米カリブ海地域4カ国、南米8カ国です。ハイクを愛し実作するスペイン語話者の詩的イメージの多様性と質の高さを改めて感じた選句プロセスでした。「地下水都市・熊本賞」の句は、春にはアメリカ大陸を南から北へ、秋には北から南へと渡る蝶の群の旅立ちを詠んでいます。「列をなし」と訳した“*en procesión*”は聖週間の聖像や信者達の行列を指す言葉で、長距離を渡る小さな生き物への深い敬意が感じられ、羽ばたく無数の蝶の鮮やかなイメージが浮かびます。同時に、アフリカ、ユーラシア、アメリカのいずれの大陸でも大きな問題となっている難民・移民の果てしない列を思い起こさせ、地球上の自然と人間との複雑な状況を照らし出します。眼前のイメージを詠んだ句が、世界を映す好例となっています。

Este año, hemos recibido haikus en castellano de 18 países del mundo. Son 6 países de Europa, 4 países de América del Norte, Central y el Caribe, y 8 países de América del Sur. En el proceso de la selección hemos reconocido de nuevo la diversidad y calidad de la imaginación poética de los hispanohablantes que aman y practican el haiku. El haiku del Premio Kumamoto, la Ciudad de Aguas Artesianas, describe la partida de un grupo de mariposas en su migración por América de sur a norte en primavera y de norte a sur en otoño. La palabra “*en procesión*”, que hemos traducido “*retsu wo nashi*”, hace referencia a la procesión de imágenes sagradas y devotos durante la Semana Santa, y evoca un profundo respeto por las pequeñas criaturas que atraviesan largas distancias y la imagen viva de innumerables mariposas batiendo sus alas. Al mismo tiempo, nos recuerda las interminables filas de refugiados y emigrantes, que constituyen un grave problema en todos los continentes -África, Eurasia y América- e ilumina la compleja situación entre la naturaleza y el hombre en el planeta. Es un buen ejemplo de que un haiku con la imagen de “aquí y ahora” puede reflejar el mundo.

西槇 偉 Isamu Nishimaki (中国語 Chinese)

今年度は5か国、地域の14作者から27句の応募がありました。作品の形式的な内訳は漢俳18句、華文俳句4句、三行の自由律短詩が5作。自由律短詩にも俳味のある作品があったが、特選には華文俳句、入選には漢俳を選びました。

特選、「盲人書／書籤上の胡蝶刺繍」(点字図書／栞の胡蝶模様の刺繍)は、点字図書を読まれる方が栞の刺繍の胡蝶を指先で確かめる情景を想像させ、優しさが感じられます。入選句は「八月十五日／父親一個人在家／蒸一個月餅」(中秋節／父親は留守番／月餅を一個蒸す)です。一家団欒の日に父親が家で一人、月餅を手作りして一個蒸し上げます。やがて家族が揃って一緒にお祝いをするかどうかわかりませんが、一家円満を願う気持ちは伝わります。

応募作はいずれも力作で、中文俳句の魅力が感じられます。応募句数が他の外国語に比べて少ないのは広報が不充分のためで、今後は積極的に中国語圏の俳人や俳句結社に連絡をとり、交流を図りたいと考えております。

這次收到5个国家地区和14位作者的共計27首作品，其中包括漢俳18首、華文俳句4首、自由律短詩5首。選出獲獎作品2首，1首“特選”(華文俳句)，1首“入選”(漢俳)。

“特選”作品「盲人書／書籤上的蝴蝶刺繡」，使人想像盲人讀書時用手指撫摸書籤蝴蝶紋樣刺繡的情景，溫馨親切；“入選”作品「八月十五日／父親一個人在家／蒸一個月餅」，描寫中秋佳節，父親親自下廚蒸月餅，充滿了對家人之愛，文字樸實。

參賽作品各有特色，可見中文（華語）俳句這種短詩已經得到眾多讀者和作者的認可。期盼着更多的作者勇躍參加「草枕國際俳句大會」。

特選 Tokusen (Second Prize)

lunchtime...
a hawk flies over with
its landing gear down

昼食時
ギア上げ鷹が
降下する

Ed Bremson
(USA)

bed of cosmos
butterfly and honeybee
exchanging flowers

秋桜の花壇
蝶と蜜蜂
花取り換えっこ

John Savoie
(USA)

incense stick
the weight of ash
before it falls

お線香
落ちる灰なる
重さかな

Ravi Kiran
(India)

cave visit...
a child's torch releases, hides, releases
stalagmites

洞穴探検
石筍が子の翳す灯で
見え隠れ

Maya Daneva
(Netherlands)

特選 Tokusen (Second Prize)

military graveyard
march of the crosses' shadows
commanded by the sun

軍人墓地
十字架の影たちの行進
指揮官は太陽

Alexandra Ivoylova
(Bulgaria)

invading
sunflower gardens
landmines

侵攻は
向日葵の庭
地雷かな

Roberta Beach Jacobson
(USA)

en su garganta
escofinas de cuchillas
cante jondo

喉奥に
ナイフのやすり
カンテ・ホンド

Jocelyn Ajami
(USA)

盲人書
書籤上の蝴蝶刺繍

点字図書
栞に刺繍の
胡蝶かな

Vladimir Aktov
(Russia)

入選 Nyusen (Third Prize)

still remaining
Guernica's grief
winter Kiev

今に残る
悲慘ゲルニカ
冬キーウ

Teiichi Suzuki
(Japan)

global warming
the world map
faded

地球温暖化
世界の地図が
色褪せて

Stephen A. Peters
(United States)

Come and see the peaceful scene:
the morning glory in bloom,
the indigo blue with dew on it.

平和な場面を
来て見てごらん満開の
藍の露滴が朝顔に

Hisako Kitsukawa
(Japan)

first day of spring:
a child's bicycle
locked with a daisy chain

春の初日はひな菊の
花鍵で子供自転車の
鍵掛けをして

Ingrid Jendrzejewski
(United Kingdom)

入選 Nyusen (Third Prize)

first showers
out of the bus window
tiny hands

降り出して
バスの窓から
子供の掌

Nitu Yumnam
(India/UAE 在住)

old graveyard
the faint glow of fireflies
lighting fading names

古い墓地
蛍かすかに
墓碑の名照らす

William Cullen Jr.
(USA)

around the campfire
sharing chirpy songs
with crickets

キャンプファイアー
囲んで歌う
蟋蟀と

Tracy Davidson
(United Kingdom)

low water
a heron treads
from cloud to cloud

水浅く
白鷺が雲から
雲へとたどりゆく

Maire Morrissey Cummins
(Ireland)

flooded field
a scarecrow
learns to swim

洪水の畠
案山子が
泳ぐほどまでに

Marilyn Ashbaugh
(United States)

swaying lavender...
the sweetness of summer
gathered by bees

揺れているラベンダー
蜜蜂が集めた
夏の日の甘美

Benjamin Bläsi
(Switzerland)

fifth stage of grief
the storm eventually
runs out of rain

五段階目の悲しみ
この嵐でもう降る
雨もなくなって

Vandana Parashar
(India)

beyond mountains...
the sun takes with it
the today

山越えて
陽は今日という日を
連れてゆく

Steliana Cristina Voicu
(Romania)

入選 Nyusen (Third Prize)

meeting
about global warming
frozen talks

地球温暖化
会議で
凍り付く議論

Mirela Brailean
(Romania)

a record of the fire in the tree rings

年輪の刻まれている
森林火災の記憶

Jeffrey Ferrara
(USA)

Una oruga y yo:
el tomate más dulce
quisimos las dos.

芋虫と私
一番甘いトマトが
どちらも欲しい

Aldana Perez Cóccaro
(Argentina)

tonos rojizos
repentino en la hierba -
resplandor de otoño

草の間に
突然の赤味
秋輝く

Regina Alonso. Sooka
(Brasil)

escampa...
el canto de un benteveo
cruza la laguna.

雨上がり
タイランチョウの声
湖過る

Sandra Perez
(Argentina)

mañana helada.
el canto del cortejo
de las ballenas

朝凍てて
求愛の歌
鯨たち

Maria Rosalia Gila
(Argentina)

Salgo de la pileta.
El agua se reparte
y me olvida..

プールを出る
水は分かれて
私を忘れる

Leandro Surce
(Argentina)

八月十五日
父亲一个人在家
蒸一个月饼

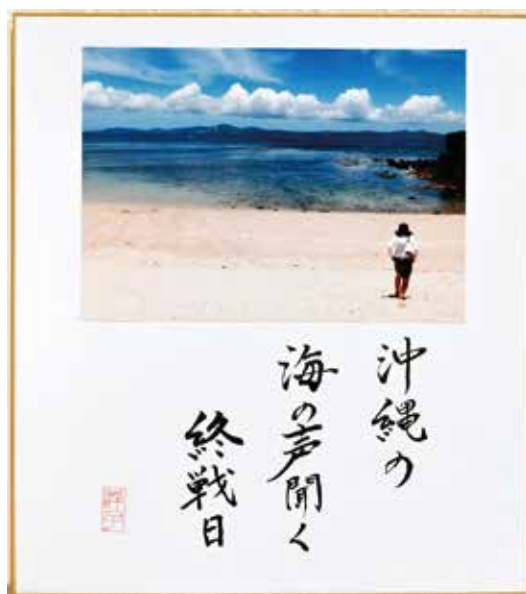
中秋節
父は留守番
月餅を一つ蒸す

郭李飞
(中国)

写真俳句部門

「草枕」大賞

田代 洋子 (熊本県 合志市)



特選

岩永 繁廣 (熊本県 熊本市)



本田紀代子 (熊本県 熊本市)



優秀賞

木下 保之 (熊本県 熊本市)



後藤希久子 (熊本県 熊本市)



吉野 倫生 (熊本県 熊本市)



入選

山田由紀子 (静岡県 静岡市)

久光 有子 (熊本県 熊本市)

中村 康子 (熊本県 熊本市)

金子 絹代 (熊本県 天草市)

内田 一正 (岡山県 岡山市)

岩下 信興 (熊本県 熊本市)

山戸 節代 (熊本県 熊本市)

高田三千子 (熊本県 美里町)

井上 昭子 (熊本県 合志市)

村田 健二 (熊本県 熊本市)

選評

穀本 純二

写真俳句部門には、全国から46人・113点(前回は42人・102点)の応募があり、井芹眞一郎先生と2人で審査をしました。

写真俳句は「1枚の写真と一つの俳句を組み合わせることで、単独では表現できない独特の余情と余韻を生み出す表現方法」とされています。簡単に言えば、写真と俳句の響き合いということになるでしょうか。写真や俳句が優れていても、響き合いがなければ写真俳句の意味はありません。審査は、このような視点で選びました。

【大賞・田代さんの作品】写真と俳句の響き合いが重層的で、胸に迫ります。今は平穏な沖縄の海ですが、七十八年前には二十万もの人が犠牲になられています。海辺に響く波音に、作者は亡くなられた方々の無言の叫びを聞いておられるのでしょうか。

【特選・岩永さんの作品】写真は新能、俳句は神楽です。外見的には別物ですが、どちらも役に徹するということは「そのものになりきる」ということでしょう。写真と俳句が補完し合い、強さがあります。

【特選・本田さんの作品】遠近法による写真の奥行きが、余韻と物語を生んでいます。俳句の「足跡(あしあと)たどり」に、漱石が蟬しぐれを聞きながら山越えしたであろう姿を想像させます。

【優秀賞・木下さんの作品】写真・俳句ともにユニークな視点です。特に写真の完成度が高く、俳句により擬人化された蛙の表情が何とも言えません。

【優秀賞・後藤さんの作品】キリシタン墓地の十字架の影と、上五の「小春日」との響き合いが作品の印象を決定づけています。なんとも優しい視線です。

【優秀賞・吉野さんの作品】嘉島町の通称・浮島さんで、日の出を撮影される人たちの期待感を俳句にされています。写真に情景を委ね、俳句に心情を委ねる。これも写真俳句の魅力です。

【全体評】前回に比べ今回は説明調の写真俳句は少なくなりましたが、それでも半数は「俳句を説明する写真、写真を説明する俳句」でした。また、明るすぎて薄っぺらに見える写真も目立ちました。俳句は助詞一つでニュアンスが異なるように、写真も明るさや色合いの違いで、見る側の心情が違ってきます。

当日投句部門

「草枕」大賞

はればれと火の山日和大根引く

平川みどり (熊本県 南関町)

中村汀女賞

白日の城を一擲冬の雷

鎌田 順子 (熊本県 宇土市)

地下水都市・熊本賞

城垣に張りついてゐる冬日かな

山本 淑子 (熊本県 熊本市)

(一財)熊本市文化スポーツ財団賞

水清き里に嫁ぎて冬あたたか

木村佐恵子 (熊本県 熊本市)

種田山頭火賞

火の国にのさる晩年秋夕焼

宗像 和子 (熊本県 熊本市)

熊本の銘菓賞

しぐるるや埴輪に残る火の匂ひ

山下しげ人 (熊本県 八代市)

岩岡 中正 選

特選

がたごとと乗客のせて秋は行く

宗像 和子 (熊本県 熊本市)

入選

鵲鳴いて買物ひとつ忘れり

境 真木子 (熊本県 熊本市)

億年の地層の黙や草紅葉

中野 恵子 (熊本県 熊本市)

落葉つきたる青空でありしかな

武藤 たみ (熊本県 熊本市)

佳作

秋風や音たて切るる三の糸

花田 綾女 (熊本県 熊本市)

軍服に赤の一筋三島の忌

川上世津子 (熊本県 熊本市)

小春日の戦なき世の天守閣

梅原 慶子 (熊本県 熊本市)

蟬螂の天を仰ぎて枯れにけり

谷 喜美子 (熊本県 熊本市)

冬耕の一と鋤ことの光かな

山村 恵子 (熊本県 玉名市)

選評

今回は四年ぶりの当日部門の復活でやや不安だったが、たくさんの方の投句者を得て、内容的にも充実していた。当日句は当日出席者によるものでどうしても熊本県内からの句が多かったが、全体として、この熊本の風土・風光を心をこめて詠んだ佳句に出会えた。とくに次の三句が心に残った。

「はればれと火の山日和大根引く」の句は「火の山日」という造語が新鮮で、「大根引く」というこの地の暮らしに密着しているし、「はればれ」とも、いかに阿蘇らしい広がりがある。

「水清き里に嫁ぎて冬あたたか」の句も、伏流水豊かな熊本の暮らしをよくとらえている。「水清き里」と「冬あたたか」が、心豊かな暮らしと人生を象徴している。「がたごとと乗客のせて秋は行く」も、街なかの電車ではなく、たとえば花野を行く南阿蘇鉄道を思わせる、ふと郷愁を誘う一句である。

小川 晴子 選

特選

宇土櫓槌音冬をはね返す

川口 隆子 (熊本県 菊池市)

入選

石が石支へ合ふ城冬ざるる
火の国の風火の色に銀杏散る
礼述べて市電降る稚児七五三

今中 榮泉 (福岡県 福岡市)
中川 裕子 (熊本県 宇土市)
田中昭三八 (熊本県 宇城市)

佳作

冬晴や城をくらしの標とす
縁側に母が居そうな冬日向
火の山の水八方に冬に入る
燕帰る大カルデラを逆しまに
武蔵描く鵜の眼鏡く冬に入る

河村邦比呂 (熊本県 熊本市)
原 鳳子 (熊本県 甲佐町)
廣瀬 守世 (熊本県 熊本市)
角田 宏子 (熊本県 熊本市)
高橋 満子 (熊本県 熊本市)

選評

銀杏黄葉の美しい熊本城近くの市民会館シアーズホーム夢ホールで四年振りに第二十八回大会が開催されました。心よりお祝いを申し上げます。

岩岡中正先生、熊本市文化市民局、事務局の皆様の絶大なご尽力の賜物です。

当日投句の選者を拝命し、心より御礼申し上げます。

俳句を学ばれ、日々精進された作品を四年振りに発表する場を得られた慶びにあふれて、明るい生々とした投句が多いように思いました。私の頂いた俳句は次の作品です。

中村汀女賞 白日の城を一擲冬の雷 鎌田順子さん (宇土市)
熊本城は心の拠り所であり、誇りです。

白日の「冬の雷」の「一擲」をも物ともせず堂々としている姿に、大きな力を頂く私達です。毎日の生活もゆらぐことなく安泰にと願うばかりです。

特選 宇土櫓槌音冬をはね返す 川口隆子さん (菊池市)

桃山時代初期の天守の様式を示している「宇土櫓」は国指定文化財です。二〇一六年四月一四日の熊本地震で損傷し、復興の槌音が聞えます。槌音は私共の胸に心強く、希望と不屈の肥後魂を表しているように思います。

一日も早く美しい「宇土櫓」の完成が待たれます。

高野ムツオ 選

特選

戦争を見て来た月の光かな

藤本 淳子 (熊本県 南阿蘇村)

入選

曲るたび天降る光や蜜柑山
戦いの跡に馬魂碑小鳥来る
お鈴鳴らし冬のひと日の始まれり

有働 利信 (熊本県 熊本市)
岡本 和子 (宮崎県 高鍋町)
友田 哲郎 (熊本県 熊本市)

佳作

湧水の溢れて鴨の湖となる
初鴨や川いきいきと海に入る
影連れて水面漂ふ紅葉かな
連根掘る新幹線を目交ひに
つぎつぎと水輪重なる中に鳩

利光 釈郎 (熊本県 熊本市)
坂本あかり (熊本県 熊本市)
中西千鶴子 (熊本県 熊本市)
轟 眞理子 (熊本県 熊本市)
頓田スミ子 (熊本県 熊本市)

選評

城垣に張りついてある冬日かな

熊本城に限ったわけではないが、城垣には敵の防御の他に城自体を護る土台としての役目がある。天守を含む巨大な建造物を支えるのだ、文字通りの縁の下の力持ちである。そこに冬日がくまなく差している。「張りつく」の一語が城を支える力を太陽がいつしんに城垣に注いでいるかのように感じさせる。

火の国にのさる晩年秋夕焼

東北に住む私が「のさる」を説明するなど、吹き出す人もいるだろうが、教えてもらうためにも記す。どうも、この言葉には幸運を授けるだけではなく、不幸も含め天命として何事も受け入れるというニュアンスがあるようだ。そんなことわかっていると今度は叱られそう。秋夕焼が晩年の幸を予兆している。

戦争を見て来た月の光かな

自転しながら地球を公転している月。いつも同じ面しか見せないが、ウクライナもパレスチナのガザも見えて来た。そして、同じ光を今日本に届ける。何事もなかったかのようにな。その光は無言のうちに人間を憐れんでいるのだろうか。批判しているのだろうか。それとも見捨ててしまっているのだろうか。

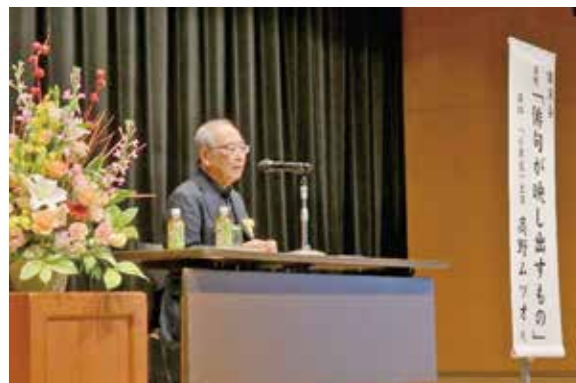
第28回「草枕」国際俳句大会

日時：令和5年11月18日(土) 13:00～16:00

会場：市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市民会館）



当日投句部門（午前の投句風景）



高野ムツオ氏講演会



ジュニア部門表彰式



外国語部門大賞（Roberta Beary, アイルランド）



受賞者記念写真

第28回「草枕」国際俳句大会報告

第28回「草枕」国際俳句大会は2023年11月18日、熊本市の市民会館シアーズホーム夢ホールに約250人が参加して行われました。表彰式のほか、コロナ禍のため休止していた当日投句部門と講演を復活させましたが、多くの人の協力で実り多い大会となりました。

各部門の実績は下段の表の通りですが、28回大会はジュニア部門が昨年に比べ大幅に増加、外国語部門では71の国・地域から投句が寄せられました。これは過去最高で、外国語部門では当大会が全国有数の大会になっていることの証しと言えます。

講師には俳誌「小熊座」主宰で、現代俳句協会副会長の高野ムツオ氏をお招きしました。高野氏は「俳句が映し出すもの」と題して講演、自身が住む宮城県多賀城市を訪れた松尾芭蕉の「おくの細道」の言説に触れながら、芭蕉の「不易流行は言葉の力を伝えようとしたのではないか」と語り、自身が東日本大震災の時に詠んだ句「泥かぶるたびに角組み光る蘆」について、「この一句は古代から繰り返されてきた営みを映し出している」と自解しました。

夏目漱石の来熊100年を記念して始まった大会も再来年には30回の節目を迎えます。体制の充実をどう図るかなどを含め、これからも多くの方の協力が必要なようです。

(第28回「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局長 高峰 武)

部 門		応募者(人)	応募作品(句数)
事前投句一般部門		504	1,798
インターネット投句部門		165	323
ジュニア部門	小学校	343	594
	中学校	667	945
	高校生及び18歳以下	628	1,089
	(ジュニア部門合計)	(1,638)	(2,628)
外国語部門		641(71ヶ国)	1,204
当日投句部門		148	533
写真俳句部門		46	113
応募 合計		3,142	6,599



飲酒は20歳になってから。



本伝
東肥赤酒



芳醇純米酒
瑞鷹

くまもとの地酒です
老舗の技で醸し出す

伝統のある

くまもとの米

くまもとの水と

「東肥赤酒」

清酒「瑞鷹」

やがて百六十年

酒造りを始めて

肥後の国川尻で

江戸時代末期

伝統と風土が
織りなす匠の酒

こころのうるおい、醸します。



瑞鷹株式会社

熊本市南区川尻四丁目6-67



健康と！
マイルが！
手に入る！

JAL Wellness & Travel
毎日の何気ない歩数でマイルが手に入る。
今日の歩数からカウント開始！

約半数が毎月/
300~1,000マイル獲得！

入会した方の90%が継続利用！

有効マイル 10,000
8月24日 09:56更新

JALウェルネス&トラベル



世界中の子どもたちが詠んだ「スポーツ」

公益財団法人 JAL財団



JAL財団では、「世界こどもハイクコンテスト」を2年に一度開催しています。1990年の初回からこれまで世界中74万を超える作品が寄せられております。ハイクと絵で構成された優秀作品は、作品集「地球歳時記」やJAL財団webサイトにてご覧いただけます。ぜひお楽しみください。

最新刊：地球歳時記 第16巻「スポーツのうた」2021年3月発行（ブロンズ新社）書店でお買い求めいただけます。

お問合せ：JAL財団 haiku.zaidan@jal.com webサイト：<http://www.jal-foundation.or.jp/jp/haiku/>

七輪を使い熊本県産米「くまさんの輝き」のおいしさを求めるヒロシ・ウエストランドの3人旅！

くまさんの輝き PRESENTS
ヒロシ & ウエストランド
七輪旅
しちりんたび



YouTube にて好評公開中！

JAグループ熊本 くまもと売れる米づくり推進本部 くまもとのお米 検索

おいしいと笑顔包んで65年。

65th ANNIVERSARY since 1958

くつろぎのごちそう

お菓子の香梅

【白山本店】熊本市中央区白山1丁目6番31号 TEL.096-371-5081

kobai.jp

北海道産の大納言小豆を一粒ひとつぶ手選別。

大自然の恵み、阿蘇の伏流水で炊き上げた、風味豊かな小豆餡でやわらかな求肥を包みました。

砂糖・大納言小豆・水飴・餅粉・麦芽糖・寒天・食塩。七つの自然な材料でつくる匠の味をご堪能ください。



第28回「草枕」国際俳句大会

- 主 催……「草枕」国際俳句大会実行委員会、熊本市
共 催……熊本県文化協会、熊本日日新聞社、(一財)熊本市文化スポーツ財団
協 賛……日本航空(株)、瑞鷹(株)、(公財)JAL財団、JAグループ/くまもと売れる米づくり推進本部、
(株)お菓子の香梅、福井市、松山市
後 援……(公社)現代俳句協会、(公社)日本伝統俳句協会、(公社)俳人協会、国際俳句協会、
俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会、くまもと漱石倶楽部、
(一財)熊本市国際交流振興事業団、RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791、
熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会

「草枕」の玉手箱

～入賞作品集～

令和6年(2024年)2月発行

編集・発行/「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局

〒862-0942 熊本市東区江津2-28-77 高峰武方

Tel・Fax：096-364-4510

Email：kusamakura-haiku@outlook.jp

草枕ホームページ： <http://kusamakura-haiku.jp/>